

「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 上森 節子

日時	2023 年 11 月 12 日 (日) 10 時 00 分 ～ 14 時 40 分	天候	曇り、雨	コース名： 第 43 回よりみちクラブ
案内団体又は催事名	「御所まち 霜月祭」			参加人数 大人 21 名

集 合：近鉄・御所駅改札口(外) 10:00

ガイド： 服部、玉尾 (ひ)、上森 (ならなぎ会員)

行 程：近鉄御所駅→高札場→西御所散策→葛城公園で昼食後(11:40) 出発→鴨都波神社お祭り体感→山伏お練り見学→吉祥草寺護摩たき法要見学→円照寺→東御所散策→油長(造り酒屋)→宿チャリンコ→環濠スポット→モリソン万年筆カフェ→東川酒店→J R御所、近鉄御所駅

出席者…山田(勝)・久賀田・上森・玉尾(洋)・近野・村上・寺尾・服部・澤井・福島・竹山・取田・森・橋本・武田・嶋村・木邨・玉尾(ひ)・堀内・樋野・北川

10:00 J R組と合流してアーケードのある新地商店街を美味しそうな食べ物や手作り小物など横目でながめながら、西御所まち散策をスタート。

10:05 高札は奈良ではおなじみだが、ここのものは江戸時代のものを平成 20 年に国の「日本風景街道」事業の一環として復元された。遠見遮断(とおみしゃだん)といわれる集落の外から内部の様子がわからないように入り口をわざと鍵型に道を曲げている道路がある。四地蔵(長命地蔵)がひっそりと祀られている。

福飯邸：現在の建物は明治 32 年建築、1651～1962 まで 300 年間「土佐喜」という屋号で旅館が営まれていた。現在は春雨製造を他所で営まれている。

岸本邸：1857 年建築、日本式連子窓、鎧板張り、三層入母屋煤瓦葺(すすがわらぶき)の屋根。かつては、交通の要所であった御所町の入り口で運送業が営まれていた。

10:15 大和絨の製造業を営まれていた江戸末期建築の藤本邸、元法務大臣奥野誠亮氏の生家。丁字路の「衝波除け」の石が置かれた家の交差点を曲がるとイチゴの木がたわわに実になっていた。

10:20 次々と明治末期の建築の古い町家が軒を連ねる、かつて裕福であった商家を見学。所々で歴史ある屋敷を公開しミュージアムになっているが、時間の関係で見学は午後にまわすも、屋敷前で売られていた「おずぬ餅」は人気でひとだかりができていたにもかかわらず、素早くゲットした人が何人かいた。

10:25 アールデコ調の元醤油屋、のちタバコ屋の江戸後期の建物はカメラスポット、スケッチに訪れる人も多いという。この前には大神宮さんが祀られている。江戸時代に 60 年周期に起こった伊勢「おかげ参り」、1830 年最後の波は抜け参りともいわれ、参宮者は十分な路銀を持たず出発したため各地で宿泊や食事が提供される施行が行われていた。御所まちは裕福な商人であふれていたため、半年間で 9729 人を受け入れ、宿泊、食事、弁当、路銀なども施したという。その記録や、受けた人からのお礼状が残っている。その施行が行われた蔵屋敷の跡に建てられたのがこの大神宮。

10:30 西柏町の名前のいわれとなった古木巨樹、サイカチの木を見る。3 本あって最も大きな木は、5.2 メートル。

根本は空洞化している。白蛇が住むという伝説あり「白蛇大明神」を祀る祠がある。1972 年に奈良県保護樹林となっている。

10:40 まだまだ、多くの古い町家商家を見ながら細い道、ところどころの背割りと呼ばれる生活用水や下水を流した水路が江戸時代から当時の姿をとどめている街並みを歩く。重量感のある屋根、各所に残る軒先に石灯籠(おかげ参りの接待のお礼で贈られた)、ばったん床几、立派な袖うだつ刻印の刻まれた瓦や、家運長久のまじないを込めた鬼瓦など、見どころはたくさん。かつてはとてつもない裕福な町であったことがしのばれる。三つ巴の模様の丸瓦は、しっばが長いほど古い

11:20 葛城公園に到着、昼食

山伏さんの団体が集合してこられて、おずぬ餅のふるまいを受けていた。驚いたことに年齢層はまちまちで、女子もたくさんおられた。

11:40 トイレの行列が落ち着いたので集合をかけ午後の部出発。

12:00 油長酒造の空き地で鴨都波神社の祭り体験、ススキ提灯のパフォーマンスを見学。コロナ前にはふるまわれていた銘酒「風の森」は今年是有料になっていた。ススキ提灯とは、「稲穂の実っている姿」を提灯の形にしたと伝わる。勇壮な太鼓のリズムに乗り、高さ4.5メートル、十張の提灯を三段に組み上げられたススキ提灯が宙を舞い、パフォーマーのオデコに乗ったり、肩に乗ったりと見どころたっぷりの演出。

12:15 間に合うかもと速足で東御所の大橋まで急いで移動。タイミングよく山伏さんのお練りに追いついた。山伏衆は、天台宗聖護院派本山派とのことで、熊野を中心に活動した天台系グループとか、100人はおられたかという多人数で、ほら貝の音と共に装束きらびやかに、圧巻のお練り風景であった。ともに写真とりながら吉祥草寺まで歩く。

12:40 吉祥草寺は修験道の開祖、役の小角の生誕地、小角開基と伝わり、かつては境内に49の寺院が並び大伽藍を誇ったが南北朝の戦火でほとんどが消失した。現在の本堂は1394~1427再建
毎年1月14日には大とんどが行われることで有名。

13:00 護摩たき法要、作法の儀で山伏さんの長老が弓矢を放ち、見学者は拾いに走った。まさかりをふるって邪気を払う所作もあり、結構派手な儀式。これくらい派手にやらないと悪霊は払えないのだろう。所作の前に恒例の「山伏問答」があった。修験道の開祖や、山伏の持ち物をこたえるのだという。

装束は、頭に頭襟（ときん）、大日仏、不動明王の働きを象徴するもので山中では杯となる。

手には錫杖、結袈裟（ゆいけさ）すずかけ、麻の法衣を身にまとう。引敷（ひっしき）とよばれる毛皮を腰に巻き、山中で互いの連絡や合図の為に、ほら貝を加工した楽器をもっている。結袈裟についた梵天色は多色あり、赤、紫が高位であるようだ。カラフルなひものような腰に付けたロープは貝の緒（かいのお）とよばれ、山の中でほどいてザイルになる。

いよいよ、ヒノキのやぐらに上からも下からも火がつけられると、もくもくと煙が空に上がる。

護摩焚きが始まり、周囲は生暖かく煙で不思議な空間となった。

13:30 山門前で記念撮影をする。

13:50 もと来た道を歩き、円照寺を訪ねる。

円照寺は浄土真宗「大和五か所御坊」の一つに数えられ1546年に桑山源吾が常德寺として建立。のち中本山を命ぜられ円照寺と改称された。天保はじめ本堂の建て替えの時には20メートル四方の総ケヤキ造りの本堂を立てるのに足場が葛城川の堤近くまで斜めに伸びていて、足場の上を牛が引くそりで資材を運搬したと伝えられている。足場を取り外したあとへ町造り、道筋造りの計画がなされ寺内町として、門前町の原型が整った。平成16年本堂大屋根修理の際、降ろされた3メートルを超える鬼瓦が置かれている。境内には甘柿のルーツである「御所柿」があり、衣服界の大革命といわれる大和緋（御所緋）を発明した浅田松堂の墓もある。

14:00 もと来た大橋通りに戻り大橋を再びわたり本町へ。途中、東御所まちの町家を見学。

14:20 本町通りから油長酒造の角を北に曲がり宿チャリンコへ。小さな宿の部屋を見学。ここは、かつては自転車屋だった場所。

14:25 環濠見学スポットへ。

14:30 モリソン万年筆工場の再生されたホテル。カフェバーもありカレーが提供される。かつて昭和の時代国産ブランドとして世界と競った「モリソン万年筆」、製造停止から50年。工房が高級ホテルに生まれ変わった。

14:40 東川酒店で希望者はおみやげに風の森を購入。

JR組と近鉄組とに分かれて解散

所感等

曇り空から最後は小雨になったが、解散時はアーケード商店街を通りあまり濡れることなく駅に行けた。

祭りは1日だけなので時間を読む下見ができず、時間がかかなりタイトになり、駆け足のまち歩きとなった。

もっと祭りの買い食いなども楽しんでもらいたかったのに残念だった。しかしながら、山伏お練りや祭り体験の両方が見学できたことで、皆さん喜んでくださったかと思う。

特記事項

寄り道クラブには、新人さんがあまり参加してくださらないが、今回は1名参加して楽しんでくださったようだ。これからもどんどん参加していただけるようなイベントを考え、実行することで、会員を増やすことや、継続につながるのではないかなと思う。

